

なし管理情報No.7

令和7年8月27日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 生育概況

(1) 「幸水」の収穫時期と果実品質

- ・収穫開始は、8月14日頃で、前年に比べ7日、平年に比べ4日遅かった。
- ・収穫盛期は、8月25～27日頃の見込み（前年8/24、平年8/23）。
- ・収穫盛期頃の果実品質は、下表のとおり。

「幸水」の品質調査結果（下野方2地点平均）2025年8月25日（満開後130日）					
年次	平均果重 g	地色 指数	果肉硬度 lbs	糖度 Brix%	酸度 PH
R7	379	4.0	6.3	13.2	5.33
R6	390	3.6	6.2	12.7	5.10
過去平均値 H27-R6	415	3.3	6.0	12.7	5.13

(2) 他品種の生育

- ・果樹研究センターによると、「豊水」は前年より小さく、平年並、「あきづき」は、前年よりかなり小さく、平年より小さい。

2. 病虫害防除

＜発生状況＞

- ・【黒星病】産地全体の平均発病果そう率は8/6時点で1.5%、8/21時点で0.5%と平年より少ない（別紙参照）。なお、発病は園地の外周部に偏っている。
- ・【カメムシ類】7月以降の誘殺数は平年並で発生量、吸汁被害果は少ない。
- ・【ナシヒメシンクイ】第4世代の誘殺数は平年より多い。「幸水」の果実被害は少ない。
- ・【ナミハダニ】梅雨明け以降の高温少雨により8月上旬頃から中発生。

＜防除のポイント＞

- ・黒星病対策：発生が平年に比べ多い園地では、罹病葉の摘み取りの継続に加え、秋型病斑葉の増加を抑えるため、「幸水」収穫後にナリアWDG（2,000倍、収穫前日まで、3回以内）の特別散布を行う。
- ・シンクイムシ類対策：「豊水」等、中生品種で被害が懸念される場合は、アグロスリン水和剤（2000倍、収穫前日まで、3回以内）または、サムコルフロアブル10（5,000倍、収穫前日まで、3回以内）を散布する。
※ハダニ類が多発している園では、ハダニ類の天敵にも影響があるアグロスリン水和剤ではなく、サムコルフロアブル10を散布する。
- ・ハダニ類対策：発生が見られる場合、早めにカネマイトフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、1回）を350g/10aを目安に特別散布する。
※既にカネマイトフロアブルを散布している園で、今後も殺ダニ剤の散布が必要な場合は振興センターにご相談ください。

<薬剤防除>

回数	散布時期	対象病害虫	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり 散布量	実施日 (自己記入)
特散	黒星病多発園				
	8月末～9月上旬 「幸水」収穫後 速やかに	黒星病	ナリアWDG※ 展着剤 マイリノー	2,000倍 20,000倍	350ℓ
特散	8月末～9月上旬 「幸水」収穫後 速やかに	シンクイムシ類 カメムシ類	アグロスリン水和剤※ 〔ハダニ類が 発生していない場合〕 または サムコルフロアブル10※ 〔カメムシ類が 発生していない場合〕 展着剤 マイリノー	2,000倍 5,000倍 20,000倍	350ℓ
		シンクイムシ類			
特散	ハダニ類 発生時	ハダニ類	カネマイトフロアブル※ 展着剤 マイリノー	1,000倍 20,000倍	350ℓ

※ナリアWDG、アグロスリン水和剤、サムコルフロアブル10、カネマイトフロアブルは収穫前日まで散布可能。

※ナリアWDGは、サムコルフロアブル10、アグロスリン水和剤、カネマイトフロアブルと混用可能。
サムコルフロアブル10とカネマイトフロアブルは混用可能。

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意する。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用する。

3. 今後の管理

(1) 土壌水分管理

- ・土壌が乾いている場合、中生品種に対し、少量のかん水をこまめに行う。

(2) 中生品種の収穫

- ・「豊水」は、近年みつ症の発生が多い傾向があることから、収穫遅れに注意する。

(3) 礼肥の施用

- ・翌年の花芽の充実と貯蔵養分の蓄積を促進するため、礼肥を2回に分けて施用する。
- ・施用総量：硫安20～30kg/10a
- ・施用時期と施用量：

収穫終期	硫安10～20kg/10a
収穫終了直後	硫安 10kg/10a

(4) 台風対策

- ・台風シーズンに入っているので、今後の「台風情報」に注意し、収穫作業、果樹棚の点検、棚の振れ防止対策などを計画的に講じる。